

## ■ 特色ある教育活動

### 伝承活動：福岡小学校の「鹿踊・剣舞」

福岡小学校の取り組み —— 伝承活動を通して ——  
平成22・23年度 伝統文化教育実践研究指定校(文部科学省)

#### 1 福岡鹿踊・剣舞の歴史

仙台開府の頃、仙台城下八幡堂の踊り大将、藤九郎が鹿踊・剣舞の始祖とされている。福岡中組(福岡地区の泉、城の内、川崎の3部落)にこの踊りが伝わったのは今から約360年前である。

「鹿踊」は祖霊供養、五穀豊穡、天下泰平を願い神社などの祭りで奉納されてきた。「剣舞」は鎮魂の舞であり旧盆などに踊られてきた。現在は宮城県の民族無形文化財に指定(H3.8)されている。

#### 2 福岡小学校と鹿踊・剣舞の関わり

福岡小学校では、昭和50年以来今日まで36年間「鹿踊・剣舞」を伝承している。総合的な学習の時間を利用し、5・6年生全員が踊りの学習に取り組み発表活動も行っている。

4月から10月までは地域の保存会の方々の指導を受けて練習し、11月後半から3月までは6年生が4・5年生の指導にあたる期間になっており、児童相互の学び合いを大切にしながら活動が進められている。

児童の中には、父や母がかつて踊っていたという子もおり「鹿踊・剣舞」の伝統が親から子へと伝わっている部分もある。

#### 3 「道徳」との関わり

福岡の「鹿踊・剣舞」の背景には地元の人々の熱い思いが流れている。その思いを道徳の時間を通して児童に感じとらせ、伝統の大切さを学んでいる。

平成22年度に1年生と2年生の道徳教材を作成し、これにより1年～6年までの「鹿踊・剣舞」の学習体系ができた。

1年生は、福岡小学校が大切にしている「鹿踊・剣舞」の第1歩に触れさせることをねらいとして、2年生では保護者や地域の人々の思いに触れるとともに、自分との関わりに触れさせることをねらいとして学習する。3年生では「ふるさとのまつり」というテーマで地域に伝わる祭りの意味について、4年生は「福岡の鹿踊・剣舞」のテーマで、福岡に伝わる伝統芸能について学習する。5年生は「石川さんのうた」という題で、父の跡を継いで「剣舞」の歌を歌う石川さんの姿を通して伝承することの意味について考え、6年生になると「佐々木先生の手紙」を通し、地域に伝わる伝統を大切にしながら守り伝え続けることの大切さとその意味について学習する。

道徳と「鹿踊・剣舞」のつながりは深く、6年間の学習を通し生きた道徳として児童一人一人の心の中にしっかりと刻み込まれていくことと思われる。

#### 4 「鹿踊・剣舞」の基本的な考え方

教育目標の「心豊かな気力にみちた児童の育成」の一環として、全教育活動を通して、郷土の伝統や文化を愛する心情や態度を育成する。

- ・ 総合的な学習の時間、生活科、道徳等の指導内容に、伝統文化教育の目標を有機的に統合させ、各教科など固有の目標達成を図りながら、伝統文化教育の目標にも迫っていく。
- ・ 地域との連携・融和を進める。

地域の「ひと・もの・こと」を学習場面に積極的に取り入れ、体験的な活動を指導計画に位置

づける。

- ・ 低学年は生活科を、また中学年からは道徳の時間(郷土愛)を中心に伝統文化教育を年間指導計画に位置づけ、系統的・発展的な指導を図る。
- ・ 「鹿踊・剣舞」伝承活動(総合的な学習)を通して、民俗芸能のよさ、伝承活動のよさ、その継承に尽くしてきた人々の思いなどを理解させる。そして、短期間ではあるが地域の伝統文化の継承に自分も参加しているという誇りと喜びを実感させていく。
- ・ 平成7・8年文部省伝統文化教育推進地域の指定を機に、近隣の小学校、中学校との連携をいっそう深めている。(冠のふるさとまつりの参加)

## 5 「鹿踊・剣舞」の実際

### 【指導と発表】

前年度の6年生の指導を受けた新5年生・6年生は、4月からはさらに、地域の保存会の指導を受けて完成を目指す。保存会は、常時5名前後の方がきて指導に当たっている。

11月になると、次年度に向けての練習にはいる。最初の指導は6年生が「師匠」として後輩の4年生と5年生の「弟子」に卒業するまで一通りの唄と踊りを教える。

- \* 福岡鹿踊・剣舞保存会は、児童の発表のたびごとに、多くの方々においでいただき、衣装の着替えや、笛、太鼓、唄い上げなどを手伝っていただいている。

発表の場は年間約5～6回ほどだが、出演依頼を受けての披露も行っている。

〈校内〉 「学芸会」「伝承活動引き継ぎ式」「福岡夏祭り」

〈校外〉 「仙台青葉まつり」「冠のふるさと伝承まつり」「老人ホームの慰問」など

## 6 「鹿踊・剣舞」の持つ意義

伝承活動は他校にない福岡小学校独自の特色ある教育活動と言える。そのねらいは民俗芸能の後継者育成を目指すものではない。

「鹿踊・剣舞を通して学ぶ」ことが大切なねらいであり、教育的な意義を持つ。子供たちに学んで欲しいことは次の5項目に表される。

### ◆ ふるさとを愛する心

伝承活動を通して、自分たちが家庭や学校だけでなく、地域の多くの方々に温かく見守られながら育ててもらっていることに気づいて欲しい。そして自分が育った郷土「福岡」を今以上に愛する人に育てて欲しい。そんな願いを込めてこれまで続けられてきた。

平成8年度からは、さらに「道徳」の時間に「鹿踊・剣舞」や伝承活動を題材として取りげ、保存会や地域の方々に直接お話をいただきながら「郷土愛」について考える学習も行っている。

### ◆ 自分に自信を持つ

「あなたの故郷はどんなところ？」と尋ねられたなら、「泉ヶ岳、冠川……そして三百有余年の伝統を誇る民俗芸能のあるところですよ。私はそこで育ちました。」

伝承活動を通して、人前で臆することなく堂々と自分を表現できる人間に育てて欲しいと願っている。難しい伝統芸能に挑戦し、1年間じっくり練習した上で自信を持って踊らせたいと考えた。各地で踊りを披露すると、たくさんの拍手をいただき、観ているみなさんが踊りをとても喜んでくださる。その拍手と笑顔と賞賛の言葉から、子供たちは満足感と充実感、そして自信をいただいて大きく成長していく。

## ◆ 学ぶ楽しさと教える難しさ

11月から2月までの4か月間、6年生は必死である。自分が先輩から引き継いだ踊りを4年生や5年生に教える期間になっている。教える6年生も教わる4・5年生も、【子供同士で学ぶ】楽しさで生き生きと活動する。短い練習期間なので、休み時間も惜しんで練習する風景が毎年見られる。「師匠」としてちょっぴり優越感に浸りながら「弟子」の指導に当たる6年生の顔は自信にあふれている。しかし、教えるということは容易なことではなく、「なかなか覚えない。教え方がまずいのかな。」「ちょっと厳しくしたら、やる気がなくなったみたい。」など、試行錯誤の中で6年生は精神的に成長していくことになる。

「引き継ぎ式」で自分の弟子の踊りをくいいるように見つめている6年生と、師匠に負けまいと踊る4年生や5年生の姿を見ると、今年も良かったなあと思わずにはいられない。

## ◆ 社会性の育成

「総合的な学習の時間」などで学区外の多くの人々とふれあう機会はだいぶ増えてきた。学校を離れて、踊りを披露することでさらにその機会が増え、範囲が広まっていく。

また、踊るだけでなく毎年のように新聞やテレビの取材を受け、自分たちの活動が注目されていることを実感できて子供たち自身の大きな励みにもなっている。

## ◆ 体力づくり

週1時間の活動でも、毎週の練習の積み重ねで、子供たちの体力も相当つくことになる。普段の練習では、約30分間は踊っている。かなりきついと子供たちは言う。夏休み明けなど、久しぶりに踊ったときは、1回の踊りでふらふらになるくらいである。これが、11月も終わる頃になると疲れたと弱音を吐かなくなってくる。

## 7 伝承活動計画

伝承活動の練習日は木曜日の5校時

- 1学期： 4月：【保存会の先生方との顔合わせ】  
↓  
保存会の先生の指導(全15回)  
2学期：10月  
↓  
11月：【6年生と4年5年生との顔合わせ】  
↓  
6年生の指導(全15回)  
2月： 【引き継ぎ式】

【鹿剣シンボルマーク】



\* 11月～2月までの6年生の指導

全15回の計画は以下のように行っている

### 【鹿 踊】

- ・7種類の曲(しの笛のメロディー)を暗唱する → 暗唱テスト(合格) → 太鼓をたたく  
→ 身につけて太鼓をたたく → 頭をつけて踊る → 衣装のつけかたと踊り

### 【剣 舞】

- ・6種類の謡を聞き扇子の回し方や踊り方などを覚える → 剣の舞までの確認  
→ 衣装のつけかたと確認

\* 各種類の謡と踊りを段階的に合格してから、次の段階に入る

→ 2月中旬(最終): 鹿踊・剣舞とも引継ぎ式を迎える(6年生指導による完成形)